

# 大沼邦弘先生略歴・著作目録

## 学 歴

- |          |                       |
|----------|-----------------------|
| 昭和42年 3月 | 上智大学法学部卒業（法学士）        |
| 昭和42年 4月 | 上智大学大学院法学研究科修士課程入学    |
| 昭和44年 3月 | 同上修了（法学修士）            |
| 昭和44年 4月 | 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程入学 |
| 昭和48年 3月 | 同上 単位取得退学             |

## 職 歴

- |          |                                     |
|----------|-------------------------------------|
| 昭和45年 4月 | 立教大学法学部助手（至昭和47年3月）                 |
| 昭和48年 4月 | 上智大学法学部助手（至昭和50年4月）                 |
| 昭和50年 5月 | 成城大学法学部設置準備委員会付専任講師（至昭和52年3月）       |
| 昭和52年 4月 | 同上 法学部専任講師（同学部開設時 至昭和55年3月）         |
| 昭和55年 4月 | 同上 法学部助教授（至昭和62年3月）                 |
| 昭和55年 4月 | 立教大学法学部講師（非常勤 至昭和56年3月）             |
| 昭和59年10月 | ミュンヘン大学客員研究員として在外研修（至昭和60年9月）       |
| 昭和62年 4月 | 成城大学法学部教授・大学院法学研究科修士課程教授（同課程開設時）    |
| 平成 2年 4月 | 同上 大学院法学研究科専攻主任（至平成4年3月）            |
| 平成 3年 4月 | 同上 大学院法学研究科博士課程教授（同課程開設時）           |
| 平成 5年 4月 | 同上 法学部長・評議会評議員・LLセンター運営委員長（至平成9年3月） |

|          |                                      |
|----------|--------------------------------------|
| 平成 9年 1月 | 成城学園理事 (至平成9年3月)                     |
| 平成 9年 4月 | 成城大学大学院法学研究科長 (至平成11年3月)             |
| 平成10年10月 | 千葉大学法経学部講師 (非常勤 至平成13年9月)            |
| 平成11年 4月 | 成城大学大学院協議会委員 (至平成12年10月)             |
| 平成12年11月 | 同上 評議会評議員 (至平成13年3月)                 |
| 平成13年 4月 | 同上 法学部長・評議会評議員・成城学園理事 (至平成17年3月)     |
| 平成17年 4月 | 同上 評議会評議員 (至平成22年10月)                |
| 平成18年 5月 | 放送大学講師 (非常勤 至平成20年3月)                |
| 平成20年 7月 | 同上 客員教授 (非常勤 至平成23年3月)               |
| 平成20年 4月 | 成城学園教育研究所長 (至平成23年3月)                |
| 平成20年 4月 | 成城大学セクシュアル・ハラスメント防止委員会委員長 (至平成23年3月) |
| 平成21年 4月 | 同上 公的研究費不正防止委員会委員長 (至平成23年3月)        |
| 平成21年 4月 | 同上 民俗学研究所所員・運営委員 (至平成23年3月)          |
| 平成23年 3月 | 同上 定年退職                              |
| 平成23年 4月 | 同上 名誉教授                              |
| 平成23年 4月 | 同上 「成城学びの森」講師 (非常勤 現在に至る)            |

## 学会及び社会における活動

|          |   |
|----------|---|
| 昭和44年10月 | 日本刑法学会会員 (至平成23年3月)                       |
| 昭和51年 5月 | 日独法学会会員 (至平成23年3月)                        |
| 平成 3年 4月 | 日本法哲学会会員 (至平成23年3月)                       |
| 平成14年 4月 | 公立学校共済組合関東中央病院治験審査・医療倫理委員会外部委員 (至平成16年8月) |
| 平成16年 9月 | 同上 医療倫理委員会外部委員 (現在に至る)                    |
| 平成18年 4月 | 大学基準協会大学評価委員会専門評価分科会員 (至平成19              |

年3月)

平成19年 4月 同上 専門評価分科会主査 (至平成20年3月)

## 著作目録

### 著書・単行本

判例刑法Ⅱ各論 [共著] 1975年 西原春夫編 日本評論社 「職権濫用罪」、「特別公務員暴行陵虐罪」、「賄賂罪」を分担執筆

刑法(2) [共著] 1977年 福田平他編 有斐閣 「従犯」、「教唆犯」、「共犯と身分」、「共犯の錯誤および中止犯」の4項目を分担執筆

答練刑法総論 [共著] 1977年 内田文昭編 学陽書房 未遂および共犯に関する14項目を分担執筆

刑法の争点 [共著] 1977年 藤木英雄編 ジュリスト増刊号 「自救行為」、「超法規的違法阻却事由」、「遺棄罪は具体的危険犯か抽象的危険犯か」、「引き逃げと保護責任者遺棄罪」、「脅迫と威迫、単なるいやがらせとの区別」、「他人の占有する自己の物と窃盗」を分担執筆

答練刑法各論 [共著] 1977年 内田文昭編 学陽書房 「住居侵入の罪」、「通貨偽造の罪(1)」、「文書偽造の罪(1)」等7項目を分担執筆

刑法学(3) [共著] 1978年 西原春夫編 有斐閣 「中止犯における中止の任意性」、「不能犯における不能の意味」を分担執筆

司法試験シリーズ刑法総論 [共著] 1979年 石川才顕他編 別冊法学セミナー 過失に関する3項目を分担執筆

答練刑事政策 [共著] 1979年 沼野輝彦編 学陽書房 「新社会防衛論」他4項目を分担執筆

刑法読本 [共著] 1981年 内藤謙他編 有斐閣 「未遂・既遂の考え方」の章を分担執筆

判例刑法研究第4巻 [共著] 1981年 西原春夫編 有斐閣 「実行の着手」、「間接正犯」を分担執筆

航空法(注釈特別刑法第6巻「交通通信法編Ⅱ」所収) [単著] 1982年 伊

藤英樹他編 立花書房

判例ハンドブック刑法各論 [共著] 1983年 日本評論社 西原春夫編 文書偽造罪に関する9判例の解説を分担執筆

刑法総論100講 [共著] 1983年 大谷実編 学陽書房 「予備・未遂」の章を分担執筆

刑法各論100講 [共著] 1984年 内田文昭編 学陽書房 「国家の作用に対する罪」の章を分担執筆

争点ノート刑法I（総論） [共著] 1988年 内田文昭編 学陽書房 「侵害犯と危険犯」他4項目を分担執筆

判例マニュアル刑法各論 [共著] 1989年 香川達夫編 三省堂 「風俗に対する罪」に関する7判例の解説を分担執筆

刑法基本講座第6巻各論の諸問題 [共著] 1993年 阿部純二他編 法学書院 「ひき逃げと遺棄罪・殺人罪」を分担執筆

刑法基本講座第2巻構成要件論 [共著] 1994年 阿部純二他編 法学書院 「行為と結果」を分担執筆

航空法（注釈特別別刑法第6巻〔新版〕「交通通信法編Ⅱ」所収） [単著] 1994年 伊藤栄樹他編 立花書房

内田文昭先生古希祝賀論文集 [共著] 2002年 大沼邦弘他編 青林書院

刑事法事典 [共著] 2003年 三井誠他編 信山社 「遺棄罪」他12項目を分担執筆

## 論説

「法存在論と行為の存在論的構造—アルトウール・カウフマンの所説を中心として—」 法学修士号取得論文（1969年）

「違法な差押物件に対する窃盗罪の成否—いわゆる所持説と本権説の対立の意味」 [内田文昭先生と共著] 上智法学論集12巻2・3号（1969年）

「未遂犯の実質的処罰根拠—不能犯論の予備的作業—」 上智法学論集18巻1号（1974年）

「構成要件の欠缺と可罰未遂の限界（一）」 成城法学1号（1978年）

- 「構成要件の欠缺と可罰未遂の限界（二）」成城法学2号（1978年）
- 「構成要件の欠缺と可罰未遂の限界（三）」成城法学7号（1980年）
- 「未遂犯の成立範囲の画定」団籐重光博士古希祝賀論文集第3巻（1984年）有斐閣
- 「学校教員による体罰と刑事責任」成城法学会編『21世紀を展望する法学と政治学』（1999年）信山社
- 「強要による行為について」大沼邦弘他編『内田文昭先生古希祝賀論文集』（2002年）青林書院
- 「誤って振り込まれた預金の払戻しと財産犯」〔神元隆賢と共著〕成城法学79号（2010年）

#### 判例評釈等

- 「境界標を損壊しても境界が不明にならない場合と境界毀損罪の成否」警察研究41巻3号（1970年）
- 「わいせつな会話音声等を録音したテープは刑法一七五条所定のわいせつ物にあたるか」上智法学論集17巻1号（1973年）
- 「相互銀行法二三条の罪が成立するとされた事例」警察研究47巻3号（1976年）
- 「暴行と死亡との間に因果関係があるとされた事例」警察研究48巻6号（1977年）
- 「モーター用ビデオテープと刑法一七五条にいう『猥褻・凶画』」法学セミナー313号（1981年）
- 「常習賭博罪の常習性」法学セミナー313号（1981年）
- 「料理飲食等消費税の特別徴収義務者ではないが義務者である法人の代表者を地方税法一二三条一項で処罰できるか」法学セミナー324号（1982年）
- 「道路交通法六八条違反罪における共謀共同正犯の成否」法学セミナー324号（1982年）
- 「現実の殺害行為を一定の事態の発生にかからせていた場合と殺人の故意の成

否」法学セミナー337号（1983年）

「贓物罪の未必的認識」法学セミナー（1984年）

「不能犯（2）」刑法判例百選Ⅰ総論（第二版、1984年 平野龍一他編 有斐閣）

「傷害罪における身体的虐待」警察研究58巻9号（1987年、ドイツ刑法研究会）

「死者の占有」刑法の基本判例（1988年 芝原邦爾編 有斐閣）

「身分の意義」刑法判例百選Ⅰ総論（第三版、1991年 平野龍一他編 有斐閣）

「死者の占有」刑法判例百選Ⅱ各論（第三版、1992年 平野龍一他編 有斐閣）

「身分の意義」刑法判例百選Ⅰ総論（第四版、1997年 松尾浩也他編 有斐閣）

「死者の占有」刑法判例百選Ⅱ各論（第四版、1997年 松尾浩也他編 有斐閣）

「事実の錯誤と法律の錯誤（2）」刑法判例百選Ⅰ総論（第五版、2003年 芝原邦爾他編 有斐閣）

「窃盗か占有離脱物横領か」刑法判例百選Ⅱ各論（第五版、2003年 芝原邦爾他編 有斐閣）

「他人の行為の介入と因果関係」刑法判例百選Ⅰ総論（第六版、2008年 西田典之他編 有斐閣）